

# 東アジア農業遺産の保全・活用活動のモニタリングと評価の手法 ～農村地域内外の多様な主体の連携による生物多様性の保全・活用活動の モニタリング・評価手法の開発に関する研究成果～

本年8月和歌山県みなべ・田辺地域で開催する第5回東アジア農業遺産学会に先駆けて、1月23日紀州南部ロイヤルホテルにおいて、国連大学サステナビリティ高等研究所主催で、世界農業遺産の保全と活用に対するモニタリング(定期的な調査)と評価の手法について、日本、中国、韓国の専門家(研究者)が集まり、意見交換を行った。

## 第一部:世界農業遺産のアクションプランの実施

### 講演① 世界農業遺産におけるモニタリングと評価の重要性



国連大学(UNU-IAS)上級客員教授、FAO GIAHS SAG委員 武内和彦 氏

「認定が目的ではなく、始まり。なぜ認められたのかを考え、よりよいものに高めなければならない」と話し、地域の自主的な評価と外部の客観的な評価によって改善する必要があることを強調された。農林水産業だけでなく、他産業と連携した新しい産業づくりの必要性も示し「環境、社会、経済の均等な発展による持続可能な地域作りが重要だ」と話した。

### 講演② 中国における農業遺産の保全と活用



中国科学院地理科学・資源研究所教授、FAO GIAHS SAG副議長 ミン・チンウェン 氏

「中国では中国農業遺産があり91か所が認定されており、そのうち15か所が世界農業遺産に認定されている。モニタリングについてはオンラインを活用し、報告される仕組みがつけられている」と話した。

### 講演③ 韓国における農業・漁業遺産の保全と活用



韓国協成大学校教授 ユン・ウォングン 氏

「韓国では農業遺産と漁業遺産がある。世界農業遺産には3地域が認定されている。活用や保全に対しては政府からの補助金が受けられる」と話した。

## 第二部:生物多様性の保全を中心とした農業遺産のモニタリングと評価の実施

【モデレーター】国連大学(UNU-IAS) 永田 明 氏

【パネリスト】

・「中国の農業遺産のモニタリングと評価の手法」中国科学院地理科学・資源研究所助教 ジャオ・ウェンジュン 氏

・「韓国の農業遺産のモニタリングと評価の手法」韓国農業村公社部長 パク・ユンホ 氏

・「農村地域内外の多様な主体の連携による生物多様性の保全・活用活動のモニタリングと評価手法の開発に関する研究」国連大学(UNU-IAS) イヴォーン・ユー 氏

・「世界農業遺産みなべ・田辺の梅システムとアクションプラン達成に向けた取組」和歌山大学教授 養父志乃夫 氏

【コメンテーター】金沢大学客員教授、東アジア農業遺産学会(ERAHS)日本議長 中村浩二 氏



パネルディスカッションでは、自己評価と外部評価の組み合わせについてや評価に点数をつけることについてなど討論され、最後にみなべ・田辺地域の取組について、中村教授から「何のために認定されているか議論し、プロセスを踏んでいる」と評価された。